

7 . 災害調査

災害調査名	調査期間	調査内容	担当者
群馬県境町で発生した竜巻被害調査	平成 14 年 7 月 11 日 及び 26 日	<p>平成 14 年 7 月 10 日午後 4 時頃、群馬県佐波郡境町で局地的な突風が吹き、境町役場の被害調査資料によると家屋 5 棟が全壊、11 棟が屋根が飛ぶ等の半壊となった。また、飛んできた鋼板製屋根によって男性 1 人が腕に重傷を負う等計 10 人が重軽傷を負った。この突風が発生した時刻は、台風 6 号が東海道沖から関東地方へと接近しており、台風の進行方向前方に位置する境町では、局地的な突風が発生する直前は南からの暖かく湿った空気が流れ込み、大気が不安定な状態となっていたと思われる。なお、利根川をはさんで南側に位置する埼玉県深谷市でも突風による被害が報告されている。</p> <p>主な調査範囲としては、利根川河川敷に沿った境町平塚地区である。境町で発生した突風は、境町役場及び現地での聞き取り調査のほか、次の結果から竜巻によってもたらされたものと推測される。</p> <p>接近中の台風の中心に対して北東象限で発生 親雲中におけるメソサイクロンの存在 直線状の限定された範囲に被害が分布</p> <p>また、被害を受けた建築物はほとんどが木造（在来軸組構法）である。構造骨組に関しては、小屋組が崩壊又は飛散する等安全性に関わる被害もみられたが、比較的壁自体の倒壊は免れているものが多かった。比較的多くの間仕切壁を有し、耐力壁が釣り合いよく配置されていると思われるものについては、水平耐力が十分に確保されているために通常の耐風設計では想定外の竜巻による突風に対しても有効に働くものと考えられる。また外装材に関しては、屋根ふき材等の飛散だけではなく、現行の耐風設計では考慮されない飛散物による外装材の損傷も一部みられた。転倒した墓石等から推定した突風の風速は 45 ～ 70m/s 程度となり、Fujita スケール（被害の程度と風速との関係に基づく竜巻の強さの指標）に当てはめると F2 に相当する結果となった。</p>	喜々津仁密 奥田泰雄 伊藤 弘